

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520385

研究課題名(和文) オスマン朝における詩と詩人の文化・社会史研究

研究課題名(英文) Social and Cultural Aspects of Poems and Poets in the Ottoman Empire

研究代表者

林 佳世子 (Hayashi, Kayoko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：30208615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、オスマン帝国における詩と詩人に関し、次の成果をあげた。まず、詩人に関し、重要な詩人5名をとりあげ、その作品と活動を紹介した。つぎに、詩人が作成した碑文詩について、現存する碑文から碑文詩の採取を行った。イスタンブル、ブルサ、エディルネの他、ギリシャのロドス島、テッサロニキ、カイロ等で碑文の収集を行い、その成果を、データベース上に集積。詳細なデータとともに、一部を公開した。アドレスは、www.ottomaninscriptions.com。本データベースの構築により、碑文詩の総体の閲覧が可能となり、あわせて、現在失われつつある歴史的建造物の保全にも寄与することができた。

研究成果の概要(英文)：This research project has investigated poets and poetry in the Ottoman Empire. The main results are as follows: First, five poets were selected from the most important poets and their activities were characterized within the Ottoman history. Second, Ottoman inscriptions, including poetry inscriptions were collected from such principal Ottoman cities as Istanbul, Bursa and Edirne, as well as Rhodes Island, Thessaloniki and Cairo. Thirdly, the materials collected during the fieldwork were edited and stored in the database, and then made public with detailed data about the present condition of the inscriptions. The URL of the database is www.ottomaninscriptions.com. Through this research project, 1560 Ottoman inscriptions have become available upto March 2015. It also contributes to the preservation of historical monuments in danger.

研究分野：東洋史

キーワード：オスマン帝国 文学 碑文研究 イスラム史

1. 研究開始当初の背景

15世紀以来、バルカン、アナトリア、中東の広汎な地域を支配したオスマン朝に関しては、政治史、制度史分野の長い伝統があり、さらにここ30年来の研究により、社会経済史の分野の研究の進展も著しい。しかし、人々の日常生活や文化活動に関する社会史的研究、さらには人々の感情の裏に分け入るような心性研究の蓄積は乏しく、オスマン史研究全体が「国家と政治」に特化している感は否めない。

その原因のひとつは、史料状況に求められる。オスマン朝は膨大な歴史史料を残したが、その多くが統治や徴税にかかわる文書史料だからである。また、文筆家の活動も、国家論・政治論などの論説類と、法学や思想などのイスラム関連の学問分野に偏っている。歴史書も戦争や事件の記述を中心とした「年代記」の類が中心を占める。それらが「国家と政治」中心の歴史研究につながったことはいうまでもない。これに対し、オスマン朝社会史・文化史研究の材料となりうる散文作品の数は非常に限られている。散文文学作品が登場するのは19世紀の西欧化改革開始以後のことだからである。こうした史料状況が、日常生活や文化、人々の心性を扱うオスマン朝期の社会史研究を阻害してきた。

しかし、この状況は、これまで「史料」として十分な関心の払われてこなかった「韻文(オスマン詩)」の文学作品群を視野に入れることで打開が可能だと思われる。実際、近年では、オスマン詩を史料として利用した新しい歴史研究が現れている。しかしながら、申請者の研究も含め、従来の研究は史料として断片的に詩のテキストを利用したに過ぎない。オスマン朝社会のなかで詩人がいかに活躍し、詩がどのような社会的機能を果たしていたのかに関する全体像の解明は、依然十分ではないのが現状である。詩を社会史研究の史料として用いるには、まず、社会における詩と詩人の役割を十分に解明する必要がある。

その一方で、トルコでは、文学研究者による「古典詩」研究が作品の校訂、公刊を中心に膨大な蓄積をもつ。日本においては全く蓄積がないものの、欧米では、E. J. W. GibbのA History of Ottoman Poetry(1900)を端緒に、Walter G. Andrewらが一連の研究で詩人とその作品の紹介を行ってきた。ただしそれらの研究のほとんどは、「詩集」の校訂、内容の紹介、作風の分析に主眼をおき、詩人の活動の社会的背景、詩の社会的役割への視点を欠いている。

本研究はこうした学術的背景から構想された。詩作が文学活動の中心にあったオスマン朝を知るには詩を無視することはできないからである。特に、「碑文詩」は、詩人がパトロンに求めに応じて作成したものであるだけに、史料価値が高い。本研究は、碑文詩テキストの分析を通じ、従来のオスマン

朝史研究が十分に明らかにしてこなかった詩と詩人の社会的な側面に光をあてることを目的とする。

2. 研究の目的

以上を踏まえ、本研究は、オスマン朝時代の文芸活動の中心にあった「詩人」と、彼らが書いた「碑文詩」のデータベースを構築し、オスマン詩をオスマン朝社会を理解するための史料として活用することを試みる。

イスラム文化圏には、建造年を読みこんだ詩を碑文に刻み、建物入口に掲げる伝統があるが、オスマン朝時代の碑文詩については、現在に至るまでその集成は十分に行われておらず、全容は明らかでないからである。

本研究では、主要な建物の碑文詩の内容を分析し、建物と詩、建物の建設者(パトロン)と詩人の関係を、具体的に明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は次のふたつの方向から実施した。

(1)「オスマン詩」に関する基礎的研究

オスマン朝時代の「詩人」と「詩」に関する情報の整理を行い、詩についてはその規則や技法を整理し日本語で公刊する。

(2)「碑文詩」オスマン社会における詩の利用」研究

海外の共同研究者 Hatice Aynur イスタンブル・シェヒル大学教授、Hakan Karateke シカゴ大教授らと協力し、オスマン朝期主要都市に残る建物の碑文、およびスレイマニエ写本図書館などでの「詩集」写本の調査により、碑文詩を収集する。これを解読し「オスマン碑文詩データベース」を構築、公開する。碑文詩に含まれる内容を分類・分析し、詩のもつ意味、作者たる詩人と社会とのつながりを解明する。

4. 研究成果

(1)「オスマン詩」に関する基礎的研究

「オスマン詩」を史料として活用するための基礎を築くため、オスマン朝時代の「詩人」と「詩」に関する基礎的情報の整理をすすめた。まず、詩人についてはアーシュクチェレビーの「詩人伝」の研究を行い、パーキールの項目を訳出し、公刊した(雑誌論文1)

「詩」そのものについては、押韻、韻律などの形式、素材、歴史的発展について整理し、『オスマン朝期古典詩入門』の出版準備をすすめた。出版準備中の同書は、第一部「オスマン古典詩の世界」、第二部「詩の技術」、第三部「詩人と作品」からなる。

また、オスマン詩人の活動を含むオスマン朝時代の文化状況については、編著『イスラーム書物の歴史』(小杉泰・林佳世子共編、名古屋大学出版会)を公刊した。

本書のなかでは、「オスマン朝社会における本」、『イスラーム世界と活版印刷』を執筆し、詩人の活動を含む文化状況を論じた。

この他、平成 24 年 12 月 17 日に研究集会を開催し、宮下遼氏（東京大学）「17 世紀のアナトリアの詩人 İsmail Bellig の『ハマームの書』」とセルム・クル氏（ワシントン大学）「The Literature of Rum: The Making of a Literary Tradition (1450 - 1600)」の発表をえ、オスマン文学の生成と発展に関する貴重な意見交換を行った。

また、平成 27 年 2 月 13 日に、在トルコ・イスタンブールのトルコ文化センター（Turkish Cultural Foundation）において開催された国際会議「Cultural Heritage in Danger: Japanese and Turkish Experiences」に参加し、海外研究協力者である Hatice Aynur (Prof. Dr., Istanbul Sehir University) とともに、"Preserving, recording and repairing of Ottoman inscriptions" の発表を行った。

（2）「碑文詩 オスマン社会における詩の利用」研究

詩の活用形態としての「碑文詩」に関しては、トルコのイスタンブール、ブルサ、エディネルにおいて、包括的な碑文調査を行った。また、ギリシャのテッサロニキやロドス島、ハンガリーのエゲルやセゲト、エジプトのカイロなどにおいて行った調査をもとに現存する碑文情報の整理を進めた。データは、データベース「Ottoman Inscription Project」に蓄積し、逐次、インターネット上で、その公開を図っている。

データベースは、建物名、建物建設者、建設年、建設者についての情報、緯度・経度、碑文テキスト、詩人、詩形、関連文献などからなり、併せて、新たに撮影された写真を付している。また、緯度経度情報をもとに、地図上に示すことも可能となっている。

本科研終了時点では、6824 件の入力を終え、うちイスタンブールの 2546 碑文、ブルサの 108 碑文、エディネルの 58 碑文については、現地調査による写真撮影や現況調査が終了している。

本研究期間中に調査を終えたイスタンブールの 2546 碑文は、次のような内訳をもつ。

イスタンブール内の地域的分布

İstanbul, Bakırköy İlçesi 4
İstanbul, Bakırköy İlçesi 104
İstanbul, Beykoz İlçesi 69
İstanbul, Beyoğlu İlçesi 297
İstanbul, Büyükçekmece İlçesi 10
İstanbul, Çatalca İlçesi 2
İstanbul, Eski Eminönü İlçesi 897
İstanbul, Eyüp İlçesi 167
İstanbul, Fatih İlçesi 471
İstanbul, Kadıköy İlçesi 61
İstanbul, Kağıthane İlçesi 12
İstanbul, Kartal İlçesi 7
İstanbul, Küçükçekmece İlçesi 6
İstanbul, Sarıyer İlçesi 86
İstanbul, Şişli İlçesi 24

İstanbul, Umraniye İlçesi 10
İstanbul, Üsküdar İlçesi 295
İstanbul, Zeytinburnu İlçesi 23
İstanbul, Tuzla 1

碑文のある建造物による分類

ahır (厩舎) 1
anabr (倉庫) 1
bend (ダム) 11
beyt, hane (住居) 2
cami (モスク) 651
çarşı (市場) 5
çeşme, sebil (泉水) 969
darphane (造幣所) 1
defterhane (役所) 1
dergah, hankah (神秘主義教団) 20
dükkân (店舗) 1
fabrika veya depo (工場・倉庫) 5
firin (パン焼きガマ) 1
güneş saati (日時計) 5
hamam (トルコ風呂) 8
han (ハン) 4
hastane (病院) 5
havuz, sarnıç (池、ため池) 4
imaret (イマーレト) 19
istasyon (駅) 3
kale (城) 5
karakol (警察) 16
kasr (離宮) 7
kışla (兵舎) 7
köprü (橋) 7
köşk (邸宅) 6
kule (塔) 4
kütüphane (図書館) 43
kuyu (井戸) 4
liman (港) 4
maksim (水の分岐所) 8
matbaa (印刷所) 2
medrese (マドラサ) 32
mektep (学校) 19
mektep (modern) (近代的学校) 27
mescid (小モスク) 21
mevlevihane (メヴラナ教団所) 15
mezarlık (墓地) 11
mühendishane (近代工房) 5
muvakki thane (時計守詰所) 9
müze (博物館) 7
namazgâh (礼拝場所) 3
nişantaşı, sütun (記念柱) 41
resmi daire (役所) 12
saat kulesi (時計塔) 6
şadırvan (モスクの泉水) 10
saray (宮殿) 204
silahhane (武器庫) 1
sur (城壁) 4
tekke (神秘主義教団修道場) 27
tophane (大砲工廠) 3
tulumba (火消し車) 1
türbe (墓) 276

碑文内容による分類

宗教文言	625
碑文詩	1051
花押文様	278
寄進文書	26
建物の由来・建造者に関する説明文	386
建物名	32

碑文詩の言語

アラビア語	32
ペルシャ語	9
トルコ語	951
トルコ語・アラビア語混在	7

碑文の文言から判明する碑文の年代

イスラム暦 800年代	4
イスラム暦 900年代	65
イスラム暦 1000年代	72
イスラム暦 1100年代	233
イスラム暦 1200年代	308
イスラム暦 1300年代	56

碑文詩の詩の形式

beyit	65
kaside	49
kit' a	853
mesnevi	2
misra	14
nesir	10

碑文詩を刻んだ文字の書体

celi sülüs 体	110
celi ta 'lik 体	101
nesih 体	15
rik 'a 体	2
sülüs 体	281
ta 'lik 体	535

本データベースの活用により、この他、韻文型の分布、その年代ごとの変化等を知ることができる。また、詩文のコーパスから、用いられる単語の頻度、意味傾向などを抽出された。文学研究に資するデータとして、今後活用が可能である。

一方、個々の詩の分析からは、詩人とパトロンの関係も明らかになった。時代を代表する詩人らは、宮廷や高位の人々と密接な関係を結び、彼らの建設した建造物に多数の碑文詩を提供している。おそらく、それが詩人にとって、有力な生活の糧であった状況が導き出される。

イスラム暦 11 世紀には、Nâmî、Hâkânî、Âsarî、Cevrî、Nisârî らが活躍している。

イスラム暦 12 世紀には、Seyyid Vehbî、Rahmî を筆頭に、Şuûrî、Üsküdarlı Zamîri Mustafa Efendi、Salim、Rüşdî、Nakşî、Şehdî、Ferdî、Osmanzade Taib、Dürri、Nedîm、Şehdî、İshak Efendi、Râşid、Seyyid Vehbî、Yümnî、Hifzi Mehmed Efendi、Şâkir、Vâsık、İzzî、Hâtem、Bahtî Mehmed Efendi、Vâsık、Şehri、

Suyolcuzâde Necîb、Feyzî、Abdî、Râgîb Paşa、Emîn、Lebîb、Nimet Efendi、Nimetullah Efendi、Salahî、Râif らが活躍している。

イスラム暦 13 世紀を代表するのは、Keçecizâde İzzet Mollâ、Rıfat、Şeyh Galib、Enderunlu Vâsîf、Münîb、Pertev Mehmed Sait Paşa、そして Ziver である。とくに、Ziver は近代化とともに建造ラッシュとなったイスタンブルで新建築物の多くにその碑文詩を残している。

以上のように、本データベースを活用することにより文学と歴史の両分野で、得られる情報は多い。

海外の研究者と協力して構築している本データベースには、現在失われた碑文についての情報を含め、オスマン朝全土の 6824 件の碑文に関する情報を蓄積されている。うちインターネットに公開されている情報はイスタンブルのものを中心に 1560 データである。都市開発によりその多くが失われる危機に直面しているオスマン碑文のデータを保存し、研究に活用する情報として提供するため、引き続きデータの整理・公開をすすめていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

1. 林佳世子「文学・歴史研究 オスマン詩を用いた社会史研究の可能性」東長靖編『オスマン朝思想文化研究 思想家と著作』京都大学イスラーム地域研究センター、pp.95-123. 2012 年 3 月 31 日

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

1. 『イスラーム 書物の歴史』小杉泰・林佳世子共編、名古屋大学出版会 2014/6/20 453 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

www.ottomaninscriptions.com

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 佳世子 (HAYASHI, Kayoko)

東京外国語大学・

大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：30208615

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし